

< 2016年1月 >

今年の目標。足と目と耳を…

国保連合会嘱託職員 ひがしだ 東田 ふみお 文男

Column

50 年近く前の、高校2年の時である。初めて国鉄京都駅に降りた。「烏丸今出川」までの市電の切符を買おうと、駅前で切符を売っていたおばちゃんに「とりまるいまでがわ」と言うと、「お兄ちゃん、字を、よお〜見てみい」と注意された▼京都で勤め始めた頃だ。会社近くで信号待ちしていたらアメリカ人夫婦？から「Kyoto Imperial Palace」はどこかと尋ねられた。「どこのホテルかいな？」と冷や汗をかきながら、ようやく京都御所と分かった。英語力のなさで、黙って御所まで同行するしかなかった▼いずれも恥ずかしく苦い思い出ではあるが、京の街を歩いているといろんな人や風景に出くわす。今年は、京都市内の街をできる限り散策しようと思っている。手始めに、本会への行き帰りのJR京都駅



一四条烏丸間は歩くことにした▼自転車に子どもを乗せ保育所に急ぐパパ。歩きながらパンをかじり、コーヒーを飲む会社員。コンビニ前で一団となりたばこをすう人たち。開店を前にATMを点検する行員さん。リュックを背にスマホとにらめっこする外国人観光客。ある日の午前8時過ぎの烏丸通の風景である▼久しぶりに「地上」を歩いてみると新鮮な感じがした。もちろん、あの頃と風景は一変しているが、自宅前のごみをはさみで拾っているお年寄りの姿を見つけると、どこか懐かしく「みんなそれぞれに暮らしているんだ」と感じた▼百貨店、銭湯、動物園…。「人のたくさん集まる所へ行き、人の生の声をよく聞け」。先輩によくそう言わ

れた。「京都駅一四条烏丸間ウオーク」は足の向くまま歩くつもり。どんな発見があり、どんな声が聞こえてくるのか。ささいな目標だが、足だけでなく、老化した目と耳に今一度刺激をあたえてみたい。